

利根川河口 銚子湊と周辺

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

紀伊・房総

くろしお物語

◇29◇

銚子(千葉県)を久(1.5キロ)を見ると川しづりに訪ねた。まず利根川の銚子漁港の第一卸売市場の岸壁に立った。銚子大橋(全長

断行した徳川家康の東遷事業が思い浮かんだ。

1590(天正18)

年、江戸に入った徳川家康はまず街づくり

に、利根川の水運の整備が必要と考え、関東

郡代に関東周辺の河川

改修に当らせた。東京湾に入る利根川を香取

海(銚子、太平洋方面)に流れを変えるためであるからダイナミックな発想である。

当時東京湾には、利根川、荒川、渡良瀬川

が注がれ、鬼怒川は香取海へ至る水系にあった。94年、台の川締め切りから始まって、利根川本流と渡良瀬川がつながった。その後、古河市中田付近から赤

ろう。

今岸壁から河口を見

ると香取海に見え、江戸・東京へ干鰯(ひしよ)うゆ、米などの物資が運ばれたさまが目につく。

漁港の第二卸売市場

「きんせい丸」の甲

白亜の美しい犬吠埼灯

台などを経て外川港へ。

外川港はリフレッシュされて昔の面影はなくな

て、小型船ばかりが停泊していた。遠洋漁業の銚子漁港と近海漁業の外川港は住み分けさ

れて共存していた。外川港から坂を上ると銚子駅とつなぐ6.4キロの銚子電鉄の外川駅が健在しており、昔も今

発展の可能性眠る港

堀川開削が大々的に行われ、利根川本流は常陸川につながり、利根川の下流の一方は江戸川を経て東京湾に至る流路と、他方は常陸川を経て香取海(銚子、太平洋)に至る流路ができた。その分岐点が関宿(野田市)。これで銚子の物流拠点が固まったわけだ。外川港を築いた崎山治郎右衛門も承知していたであ

板で修理している乗組員に声を掛けた。キャリアを尋ねると、「八戸出身で、今は銚子住人ですヨ。船は最近新調し、前は外川港(す)と元氣な若者の声が返ってきた。ここで、昔イワシで栄えた外川港が現在どうなっているかが気になる足を延ばした。海難犠牲者の千人塚、義経伝説の多い君が浜、

